

(様式2)

令和 4 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1570104065		
法人名	医療法人 愛広会		
事業所名	グループホームおやま		
所在地	新潟県新潟市北区木崎754番地		
自己評価作成日	令和4年11月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会 外部評価機関「あいエイド新潟」		
所在地	新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和5年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、平成12年4月に開設されました。グループホームおやまは2階建てとなっており、1階3部屋、2階6部屋のワンユニットとなっております。2階の入居者様は日常生活で階段昇降され自然なリハビリとなり下肢筋力の維持に繋がっております。私たちのホームでは家庭的な雰囲気を大切に、居心地がよく本音で話せる関係作りを心掛けています。日々楽しく穏やかに過ごせるよう一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみこと、気分転換を心掛け実践しています。温かみを感じ安心して暮らして頂けるグループホームおやまを見て頂ければと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺には法人の関連施設が隣接しており、医療面の連携、利用者のケアの面での連携、災害面での連携、職員の教育面での連携があり、利用者・家族の安心感を担保している。
「グループホームおやま」では、食事の時だけでなく、リビングの掃除や消毒作業、毎朝のゴミ捨てなど、「生きがいを持って」生活できるように、利用者それぞれが役割を持って生活している。
職員は「家庭的な雰囲気」を意識してさりげない対応を心掛けており、不適切なケアがないように繰り返し研修を行っている。気の合う利用者同士が互いの部屋を行き来する交流もあり、温かく見守っている。
コロナ禍で外出に制限がある中でも、生活を「楽しんで」いただけるよう、知り合いの伝手でブドウ園に出掛けたり、家族の協力を得て外出したり、可能な限り戸外に出られるよう支援している。屋内においてはおやつバイキングや梅ジュース作り等食に対する多彩な楽しみを提供したり、余暇活動や行事に力を入れ、飽きさせない工夫をしている。
事業所は、これまでの外部評価の結果や自己課題に前向きに取り組み、着実に改善を積み重ねてきた。設立して20年を超える事業所であるが、今後も理念の実践がますます期待できる事業所である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目の届く場所に掲示しており、いつでも確認し意識するよう心掛け日々の業務にあたっている。 お便りにも理念を掲げ発信している。	コロナ禍のため「地域の一員として」の関わりが減少していることから、職員会議において理念を変更すべきか検討を行う等、定期的な振り返りが行われている。「生きがいを持って」生活できるように、利用者それぞれに役割があり、職員は「家庭的な雰囲気」を意識してさりげない対応を心掛けている。また、外出が制限されている状況ではあるが生活を「楽しんで」いただけるよう余暇活動や行事に力を入れる等、理念が実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の草刈りや防災訓練等あったが、新型コロナウイルス感染の影響により困難な状況であった。	地域とのつながりが希薄にならないように、関連事業所の管理者と共に、自治会長に積極的に連絡を取っている。感染状況の拡大により実施には至らなかったが、地域で行われる防災訓練、草刈り、クリスマス会などに今年度も参加の声をかけてもらった。未だ制限はあるものの、散歩の際に挨拶を交わす等の日常的な交流は継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症予防の為出来ていない。 問い合わせや見学の際には支援の方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症予防の為、会議は開催出来ていないが、2ヶ月に1度グループホームでの近況報告、行事報告又日々の様子や事故報告を文面で伝えている。	運営推進会議は、関連事業所と共同で開催しており、コロナ禍以前は開催場所を交互に持ち回りで実施していた。現在は書面開催であり、専用の用紙と返信用の封筒を資料と共に配布したり、生活の様子がイメージしやすいように資料に写真を付けるなど、委員から意見をもらえるように工夫をしている。会議で話合われた内容は、全家族に議事録を送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター主催の勉強会に参加したり、情報交換を行っている。運営推進会議には地域包括支援センターの職員にも参加して頂いている。	介護保険の制度面での不明点や、新型コロナウイルスに関連した相談、生活保護受給者の手続きに関する相談など、日常的に行政担当者との連絡を取っている。事業所の実情やケアサービスの取り組みに関しては、運営推進会議に参加している地域包括支援センターの職員により把握されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束を行ってはならない事を認識している。3ヵ月に1度勉強会を実施し、話や考える場を設けている。玄関の鍵は7時～17時までには開放されている。	3ヶ月毎に実施される『身体拘束適正化委員会』の後、その内容を伝達する形式で職員会議内で研修が行われている。「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」の理解はもちろん、スピーチロック(言葉による拘束)についても繰り返し研修がなされている。センサーに頼らないケアも実施されている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い共有している。虐待はあってはならないこと、通報の義務がある事を理解している。	身体拘束の研修とは別に、年2回職員会議内で虐待について学ぶ機会がある。不適切ケアに関しては、『虐待の芽を摘むチェックシート』等を使用して振り返りを行っている。虐待が見過ごされることがないように、利用者の肌の状態等の観察にも注意を払っている。また、法人として年1回ストレスチェックを実施しており、必要に応じて産業医に相談できる仕組みがある。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	適正な支援が出来るように併設施設の相談員と連絡を取り、学ぶ機会を持ち活用できる様努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、本人、家族の立場になって十分に説明を行い、不安や不明な点がないか確認を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人での年1回アンケートの実施、サービス担当者会議、面会時、電話時等に要望等はないか確認を行っている。職員に気軽に話せる雰囲気作りを行っている。	法人本部で年1回家族に対してアンケートを実施しており、結果によっては意見が運営に反映されることがある。普段から面会や電話連絡の際に意見や要望を聞き取るようにしている。毎月実施されるサービスの評価の際には利用者一人ひとりから要望を聞き取る機会がある。意見を取り入れて席替えを行ったり、作業活動を見直したりしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の話し合いやスタッフ会議、その他個別でも話を聞く機会を設けている。法人としても人材活性を用いて、職員の要望を発信する事が出来るようになっている。	職員会議の場だけでなく、ミーティングや日常業務の中など、日々職員から意見やアイデアが挙げられている。「連絡ノート」も有効なツールとして活用されており、階段を踏み外さないように縁を色付けするなどの意見が活用された。法人の上層部に直接意見を言える仕組みもあり、過去には汚物室を新たに設けたり、車輛を購入する等、職員の意見が反映された。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課があり、個々の努力や実績、勤務状況等を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的開催される法人内の研修や外部研修に参加できるよう調整を行っている。研修後は内部研修をし、周知や知識の向上に努めている。新型コロナウイルス感染症のため控えているときもある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所会議等に出席し情報交換は行っている。 新型コロナウイルス感染症予防のため外部との交流は出来ていない。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人とご家族様に見学にきて頂き、雰囲気を知ってもらおうと共に不安や要望を受け止めながら、安心して頂けるよう心掛けている。入居後も不安なく過ごして頂けるようコミュニケーションをとるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のこれまでの経緯、不安、困っていることを聞き安心できるよう心掛けている。職員で情報の共有をし何でも言える関係作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の際話を聞き、今必要とされているサービス支援を見極め適切な対応に努めている。又必要に応じたサービスの紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的に介護、支援するのではなく、本人のできること、得意なことをして頂いている。職員が知らない事を教えて頂き、一緒に食事や家事、活動等を行ったり、ゆっくりと会話を楽しんだり共に過ごす時間、関係作りを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会やサービス担当者会議、毎月のお手紙等で日常の様子を伝え情報の共有を行っている。 ご家族様の状況を理解し協力しあいながら支援している。	4ヶ月毎に家族宛に広報誌が発行され、また、毎月担当職員から1ヶ月の様子が伝わるような内容の手紙が郵送されている。協力病院以外の受診や、お小遣いの充当、衣替え等は家族に協力してもらっており、共に本人を支えていく関係を築いている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人の方々が気軽に面会に来て頂けるよう環境に努めている。新型コロナウイルス感染症予防のため、実施できていない。	年賀状のやり取りが継続できるようにするなど、馴染みの人との関係が途切れないよう支援に努めている。「野鳥の会」に入っていた利用者の馴染みの場所である福島潟を訪れたり、地元出身者には馴染み深い牡丹園へ出かけたりもしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人ひとりの関係性を把握し、定期的に席替えを行い入居者同士が話しやすい環境を作っている。食事等孤立することのないよう、職員が仲介役となり良い関係が築けるよう支援している。レクリエーションの場を設け、関わり合う機会を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご本人やご家族様との関わりを大切にしている。必要時に応じて対応するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話やサービス担当者会議等で意向確認を行っている。本人の希望にできるだけ添えるよう支援している。確認の困難な方でも、関わりを持ち寄り添うよう努めている。	計画作成担当者が毎月直接利用者本人から聞き取る機会を設けている。日常的には、1対1になる場面を本音を聞き取る機会と捉え、把握に努めている。前回の外部評価結果をふまえて、本人の言動も記録に残すように改善し、思いや気持ちをはかる参考としている。意思疎通が困難な場合は、何を求めているのか本人本位に検討し、声なき声の把握に努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴、状況や環境をご家族様や多方面からも情報収集している。入居後も日々の関わりの中で把握に努めている。	入居時に家族や関係者からこれまでの暮らしについて聞き取りを行い、入居後に知り得た情報も記録に追記している。入居以前には足のむくみがなく入居後に足の浮むくみがみられたというケースでは、畳で生活していたという情報をヒントに対応を検討し、むくみを改善する等、支援に活かされた例もある。	入居後に知り得た情報の追記は行われているが、情報が1か所にまとまっていない状況である。集約された内容を一覧で確認できる形式や様式であれば、より支援に活かしやすい情報となるのではないかと。情報の整理を試みてはどうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状を見極め、把握し、活動や作業を提供している。日々の状況、心身の特変等を記録に残し職員間での情報の共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議の前に全職員の意見を意見を記録にまとめ、本人、ご家族様の意向確認をし一人ひとりにあった介護計画を作成している。	介護計画の見直しは半年毎に行うが、状態変化のあった時などは随時更新している。本人や家族、全職員の意見やアイデアを反映させて、具体的でより個別性のある介護計画を作成している。前回の外部評価結果をふまえてモニタリングの方法を見直す等、改善に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の状態を細かく記録に残し、業務日誌や申し送りノート、会議で情報共有し介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人に変化があれば早急に話し合い、見直しを行い臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の音楽ボランティアが隔週できて下さったり、地域の行事に参加させて頂いていましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にご本人やご家族の意向を確認し、可能であれば併設の協力病院に職員の付き添いにて受診している。協力病院以外の受診はご家族の協力を得てお願いしている。	入居者は全員が、協力病院である「新潟リハビリテーション病院」の担当医を主治医としている。皮膚科や眼科など協力病院にはない診療科目については家族に受診支援をお願いしている。運営推進会議に担当医も出席する等、協力病院との連携は密である。また、週1回、訪問看護師の訪問があり、日常の健康管理だけでなく状態変化の際は看護師の助言をもとに適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度併設施設の訪問看護に来て頂いている。体調の変化等があった場合も24時間相談することができ、アドバイスや指示をうけることができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、ご家族や病院関係者と連絡を密にとり、情報共有をしている。また直接状態確認を行い 本人、ご家族の意向も確認し早期に退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に向けた方針を 書面にて説明を行っている。ご本人やご家族様の意向を確認し出来る限りの支援を行えるよう取り組んでいる。	入居契約時に、重度化の指針を元に、事業所での看取りはできないことや、グループホームで入浴や経口摂取ができなくなるなど重度化した場合の対応、終末期のあり方について、家族に説明をしている。その後は、介護計画の話し合いの時期や面会時、随時連絡を行う中で折を見て再度説明を行っている。本人・家族に不安のないように住み替えへの支援をしている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には、訪問看護に来て頂いたり、隣接する病院に連絡し受診している。 マニュアルに沿い、症状別や連絡体制等が整備されている。	訪問看護ステーションとは24時間いつでも連絡がとれる体制である。夜間帯は職員一人の体制であるため、目に付く所に急変時対応のフローチャートが掲示されている。また、窒息、大出血などの初期対応のマニュアルも整備されている。事故やヒヤリハットの事案が発生した際は定期的に振り返りがなされ、法人の関連施設でも共有され、事故の再発防止に活用されている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震を想定した避難訓練を実施し、その後反省会にて振り返りを行い改善に努めている。 地域の防災訓練に参加していたが、コロナウイルス感染症のため開催されていない。	火災の避難訓練だけでなく、地震や水害の避難訓練も実施している。また、連絡網を使用した緊急時連絡訓練も行なっている。避難の際の個々の利用者の注意点が記載されたマニュアルが整備されており、避難誘導時のフローチャートも掲示されている。避難訓練の反省を活かして避難の手順を見直すなど、災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、プライバシーについても充分配慮するよう努めている。	事業所では不適切ケアについて定期的に研修を行っており、日々のケアにおいても振り返りがなされている。また、認知症の研修や接遇の研修も実施しており、一人ひとりの人格を尊重しペースに合わせることを大切にしている。記録は利用者の目の届かない場所でなされ、個人情報の取り扱いにも注意を払っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや本音を引き出せるようコミュニケーションを多くとり、声掛けに工夫しながら自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活を大切にし、急がせたり焦らせるような声掛けをすることのないよう努めている。 本人の希望に添えるよう支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備の際にご本人に着たい服を選んで頂いたり、愛用している化粧品を使い、カットや毛染め等希望に添えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切ったり、下準備、後片付け等それぞれの能力に応じ、職員と一緒にしている。季節の食材を取り入れたり、食べたいものを聞きながら献立を立てたりしている。	3食ともに配食業者から食材を届けてもらっているが、行事の際は恵方巻など、季節感のある献立にしている。時には、普段食べられないようなハンバーガーやイタリアンなど利用者の希望を聞いて提供することもある。おやつバイキングや庭で取れた梅で作った梅ジュース作り等、食に対する多彩な楽しみを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの毎食の摂取量を記録に残したり、月初めに体重測定を行い、変化を確認している。 栄養面では併設施設の管理栄養士に献立に関して指導を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、その方の能力に応じて声掛け、見守りを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレを使用して頂けるよう促している。不快なおもいをしないよう配慮し支援している。	うまく意思表示のできない利用者には、落ち着かない様子など排泄のサインを捉えて、適宜トイレ誘導を行っている。排泄の自立に向けた支援を行っており、紙パンツ使用から布パンツへと状態が改善したり、自分で使用済みの排泄用品を処理してくれる利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事以外にも午前と午後にお茶の時間を設けている。体操し体を動かす機会を持つようにしている。個別に水分を多めに摂取して頂いたり、便秘予防ができる献立の工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴を基本として対応している。入居者様の気分や体調により入浴日を変更することもある。	週3回入浴できるよう対応している。入浴剤を入れたり季節毎にゆず湯等の変わり湯を提供してゆったりと入浴ができるよう支援している。入浴を拒否される場合には、拒否する理由を考えて無理強いしない対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースで休んで頂いている。使い慣れた枕や布団を持参して頂いている。寝付けないかたがいる時は原因を探ったり、会話をしたり安心して休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋がすぐに確認できるよう管理されている。薬の変更時は業務日誌を活用し状態を確認変化を把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方にあった役割や得意分野、趣味等をつけて楽しんで頂けるよう支援している。毎月の行事や誕生日会には全員でお祝いしたり、外出することで気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナウイルス感染症予防の為、家族との外出や面会、買い物等希望には添うことはできずにいたが、ドライブや散歩したりしていた。	毎日利用者とゴミ捨て場まで出かけることが日課になっている。晴れた日には庭にレジャーシートを敷いてお茶を飲んだり、秋にはブドウ狩りや銀杏拾いに出掛けたりしている。また、条件付きではあるが家族との外出も可能である。コロナ禍でも可能な限り日常的に戸外に出られるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望の物が購入できるよう支援している。購入の際は職員と買い物に行っていたが、新型コロナウイルス感染症予防のため出掛けられてない。希望時はかわりに購入してきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時はいつでも電話使用できるようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースに温度、湿度計を設置し心地よく生活できるよう配慮している。 季節にあった作品を飾ったり、行事の時の写真を掲示しそれを見ながら入居者様同士が談話されたりと、家庭的で落ち着いた雰囲気を感じて頂くよう工夫している。	明るいリビングには観葉植物や季節の花、利用者と職員が共に作成した手芸品がさり気なく飾られている。リビングの掃除は消毒作業も含め、利用者に手伝ってもらう等活躍の機会にもなっている。職員はゆったりと対応しており、安心感を与える環境の一部となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階にソファがあり、1人になれる空間になっています。自室にてゆっくりと過ごしたり、仲の良い方と部屋で話したり、行き来している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具や置物、写真をお持ち頂いている。好みの物をいかし心地よく過ごせるようにしている。	居室には使い慣れた布団、テレビ、ソファ、お気に入りの絵、家族の写真など、本人が居心地よく過ごせるような思いの物が持ち込まれている。気の合う者同士が互いの部屋を行き来きすることができる自由さがある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口にネームプレートを用いて馴染みやすい雰囲気づくりをしている。浴室やトイレが分かりやすいよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				